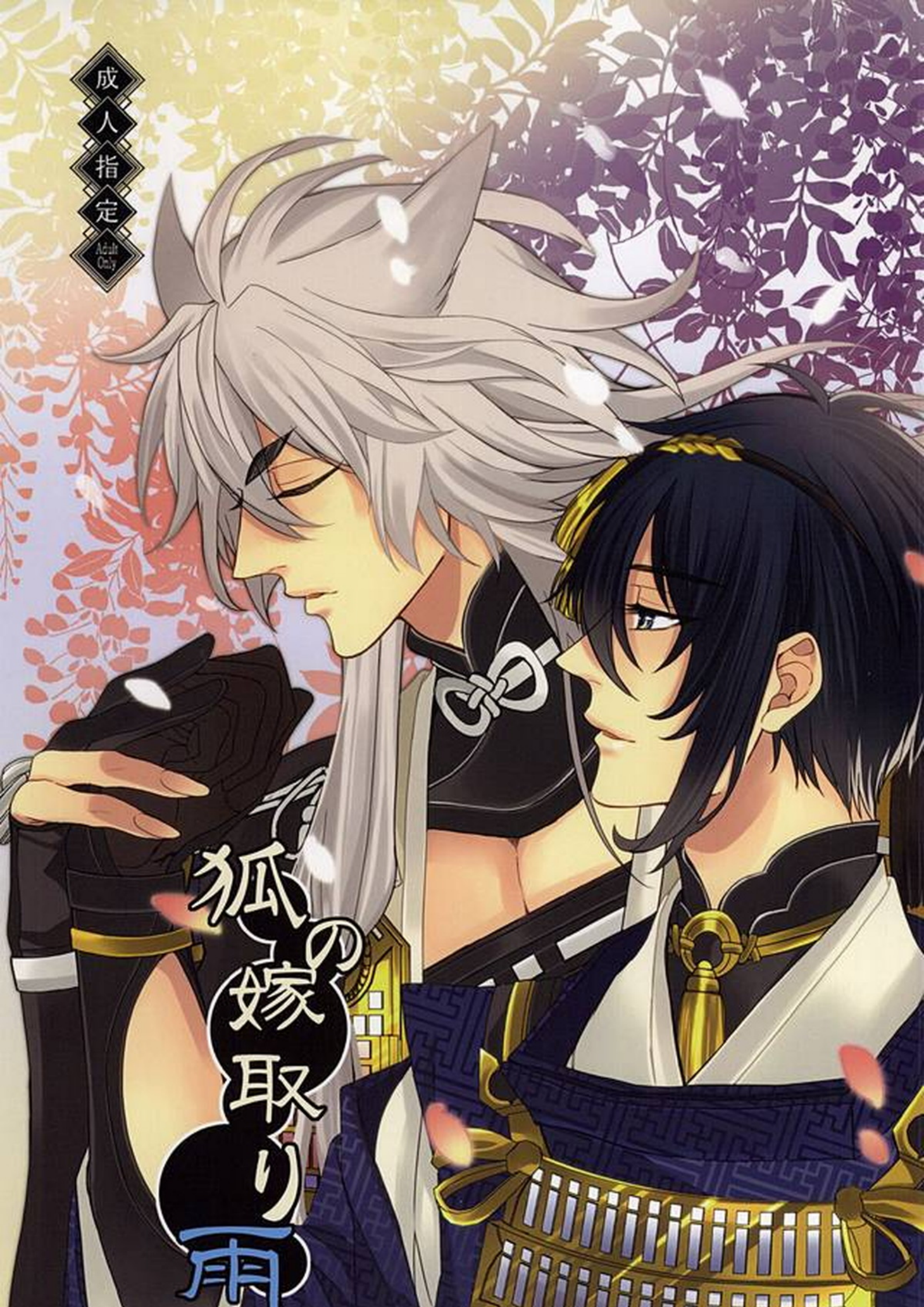


成人指定

Adult Only

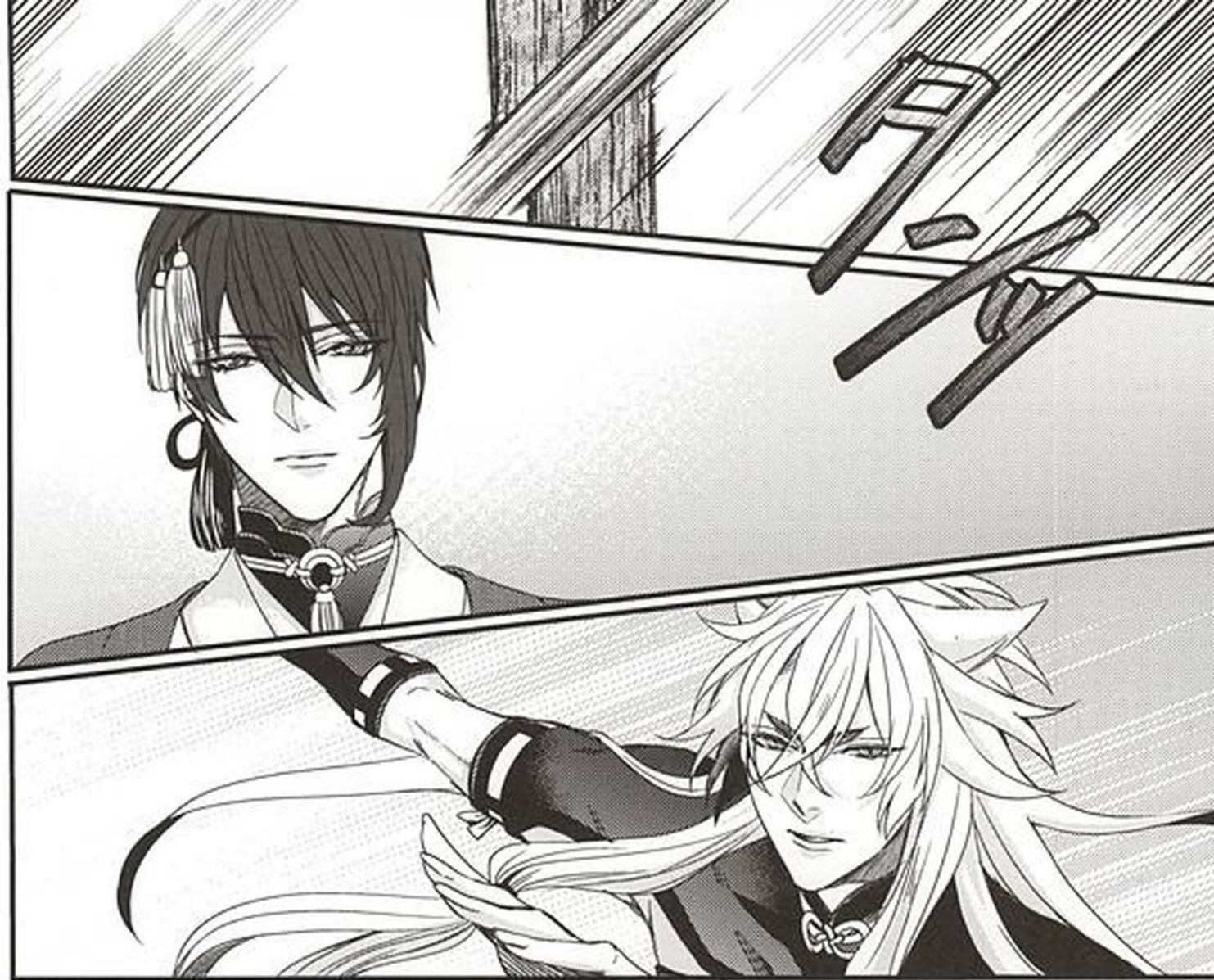
狐の嫁取り
雨



狐の嫁取り雨

チヤキッ







……
普通の人の子の
手には届かぬ処じゃな。
狐達と暮らしておった



霊刀、小狐丸。
現在まで
所在不明だろうか？

だが今こうして
肉の器を与えられて
居るといふ事は
どこかに現存しておると
いうことだ。

現存しないものは
審神者にも召べぬ
らしいからな



相槌を
打った狐か？

そうじゃな。三條の
父君も帝も
いなくなつた今、
その狐が私の
持ち主であり家族よ



成る程。

家族とともに
在るのか。よいよい




……おぬしは
どうなのじゃ


この戦が
終わったら




どうもこうも。
俺は国宝だぞ？




ああ…



博物館と
いうやつか




どちらかと
言うて蔵だな




人の子らの
気まぐれに
出される


あまり日の光を
浴びることはしないなあ。
稀に展示はされるが、
いつそれが来るのか
よくわからない。



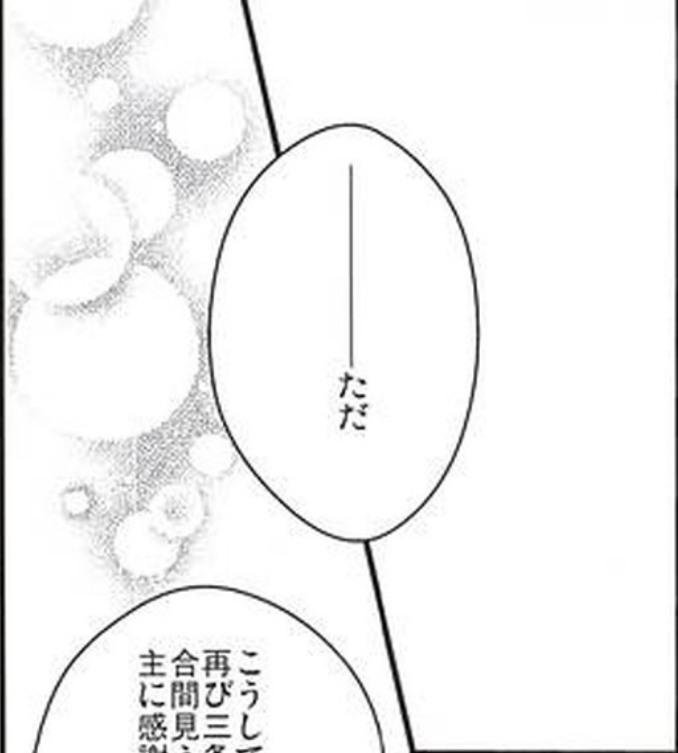
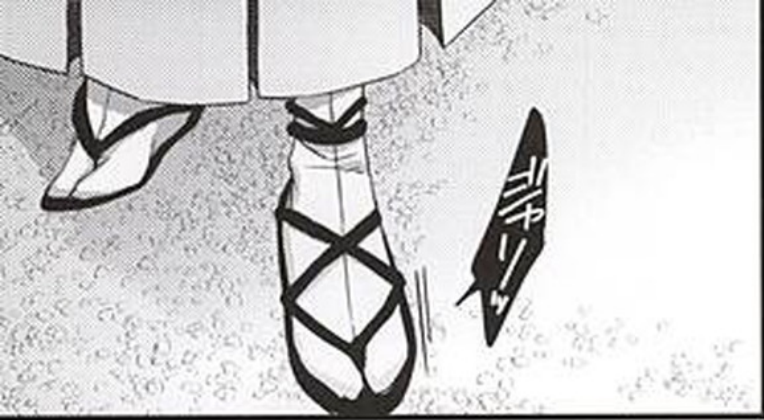
……さぞ
退屈だろう



これも運命よ。
成るように成る。



仕舞い込まれるのは
俺だけではないしな。
皆それは受け入れて
いるさ





人間どもにやるには
おぬしはあまりに
惜しすぎる。
狐がこの小狐丸が
貰い受けようと
密かに決めておった

実を言うところの戦が
終わったら否応無しに
おぬしを攫う
つもりじゃった



私と婚姻を結んで
もらおう。狐の嫁で
あれば私も
おぬしを連れて行ける

ただし
条件がある

…なんだ？

…めおと
夫婦に？
俺とお前が？

恋仲じゃろう？
よもや私に
抱かれたのは
気の迷いだっ
たとは言わ
せんぞ。

狐は番いを変えぬ。
私を受け入れた
という事は
そういう事だぞ
三日月

小狐丸に
俺が嫁入り、
……か

契りを？

さっ
へ

この誘いは
魅力的だつた。

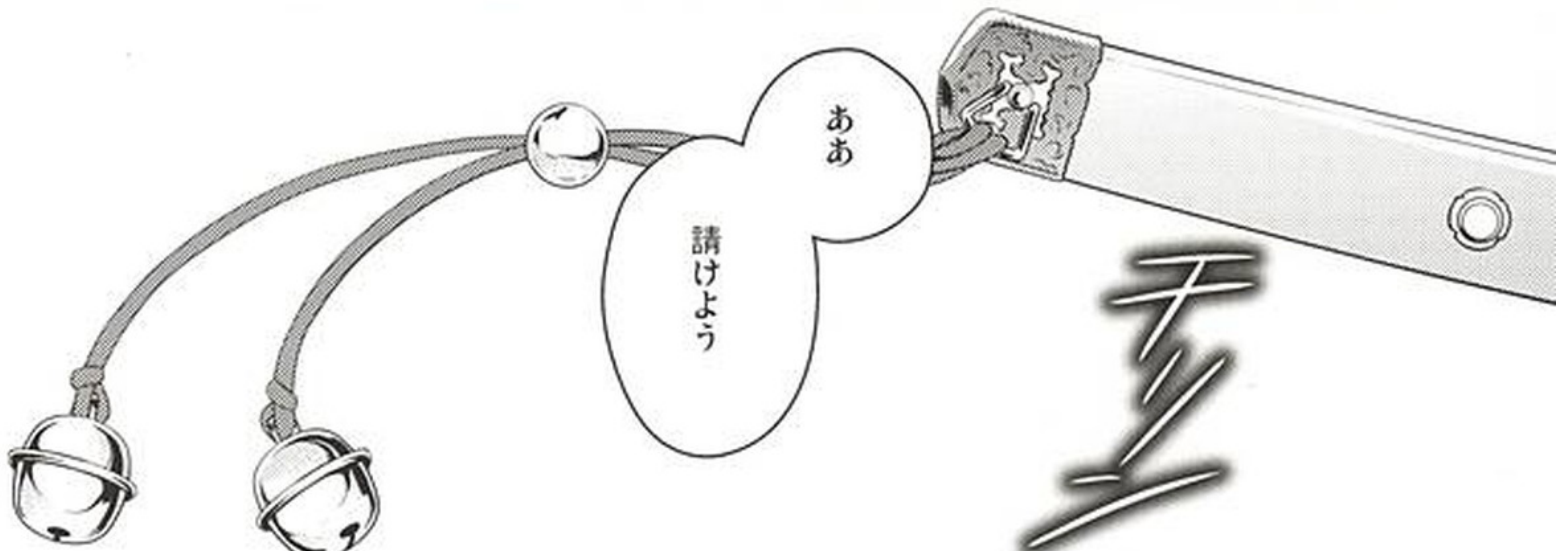
いつか、遠い世界で
小狐丸と暮らす。
なんて甘美な
響きだろう。

暗い暗い、地下で
永い年月眠るより
愛しいと思える
目の前の男と共に
ありたいと思うのは
当然だつた。

綺麗な紅だ

ああ

請けよう



おお！

嫁入りの雨か。
本当に降るのだな

あ
これでおぬしは
私の嫁じゃ

国宝、天下五剣
この世で最も美しい刀
三日月宗近

この小狐丸が
貰い受ける



はっはっは

よきかなよきかな
大事にしてくれ



姫のように
扱おう。

もう、離さぬ



三日月
きつくはないか？

んっ

あ

あ...は

はっ





…そう言うで
ない

妻との初夜を
大事にしたいんじゃ。
優しくさせてくれ



お前はいいだっ
俺に優しいぞ



俺がいいと
言ってるのに…？






あ、こ、ぎつね…

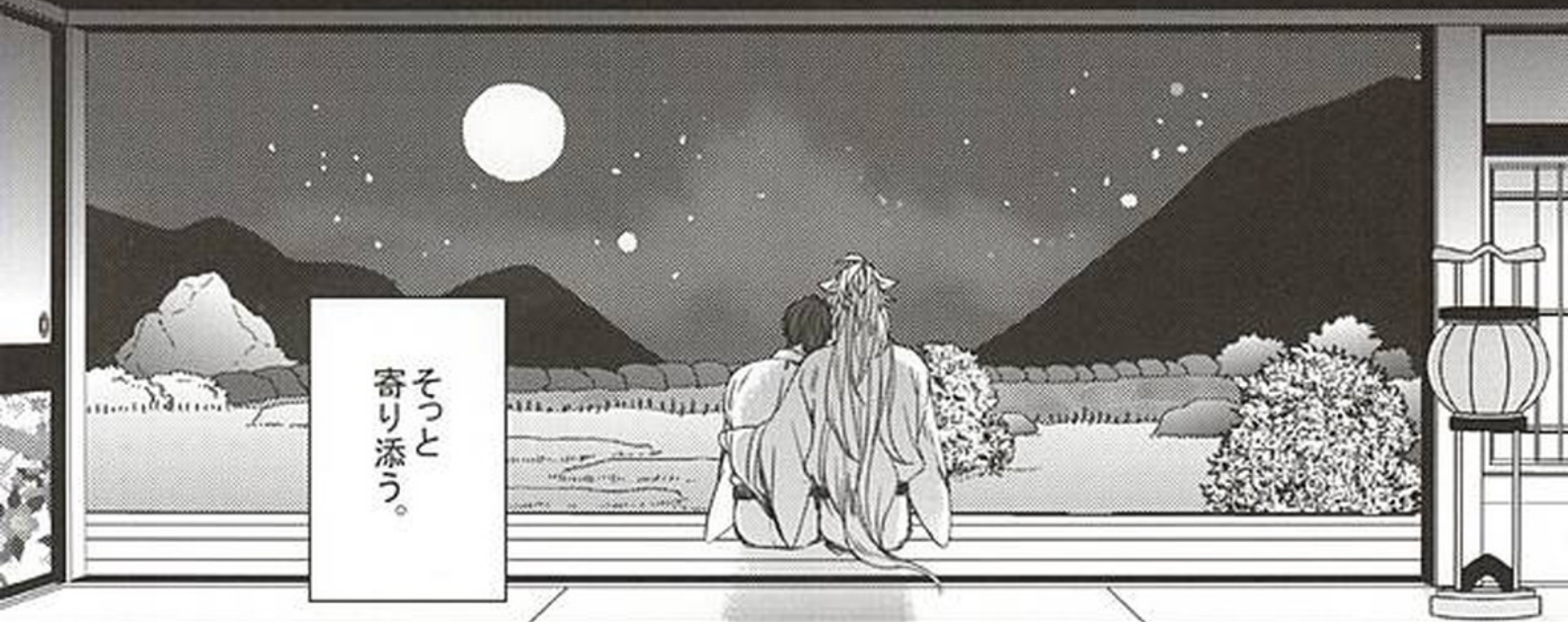
小狐丸

幾日の
甘い夜を迎え




時には
花を愛で


夜空を
見上げ



そっと
寄り添う。



それは確かに
幸せで、



まさに
夢心地だった。

そんな中、数年間
続いた歴史改変を
目論む「敵」との戦に
決着がつき

主はそれぞれの
刀を元いた場所
時代へと戻して
行った。

さあ

君で最後だ
三日月




主よ

小狐丸を
知らぬか？

あれ？
もうとっくに
戻ったよ？

挨拶
なかった？


三日月？



……
そうか

行ったか

なら、いい



うん？

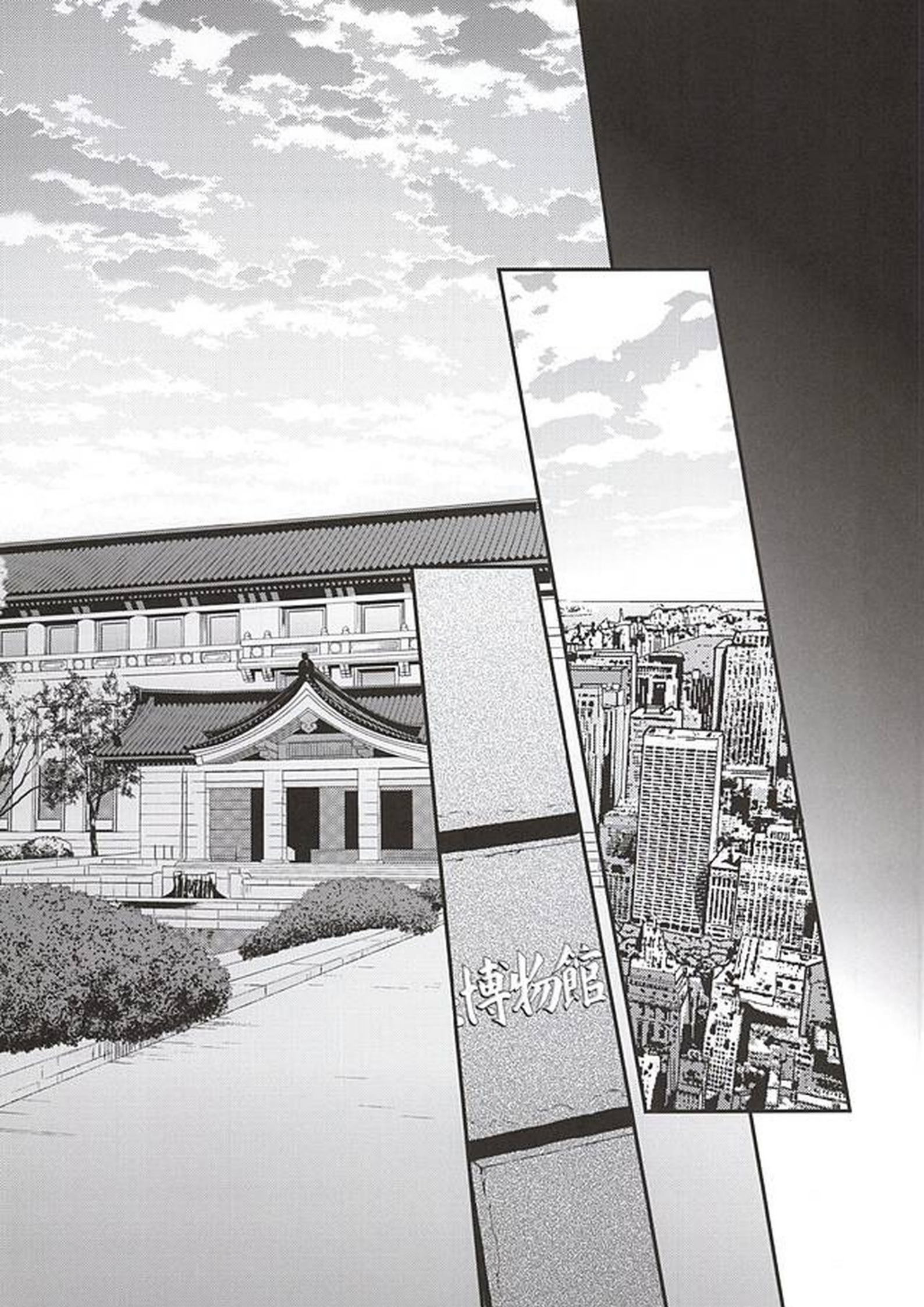


主

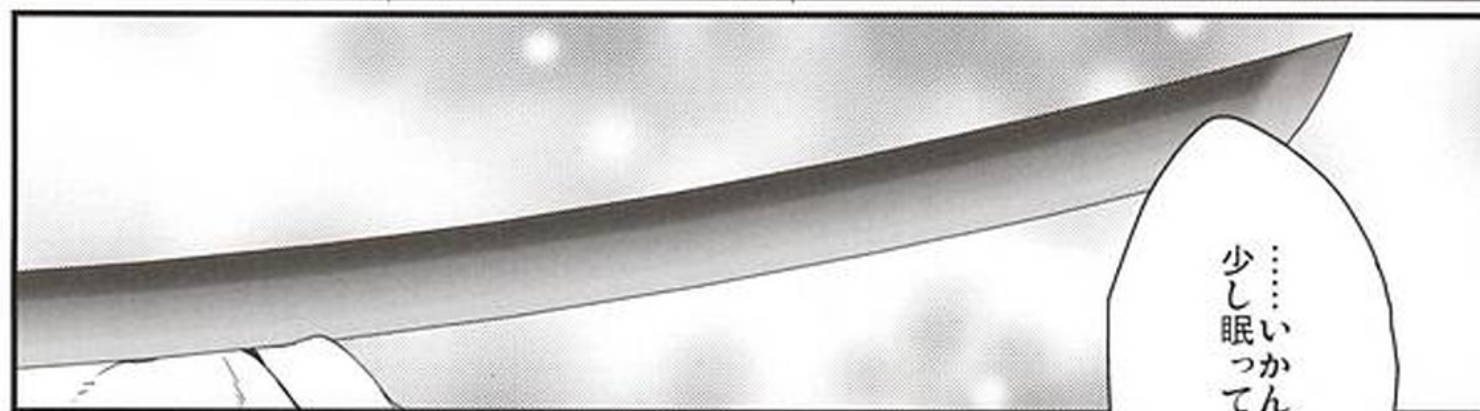
世話になったな

置いていかれた。
ただ、それだけだ

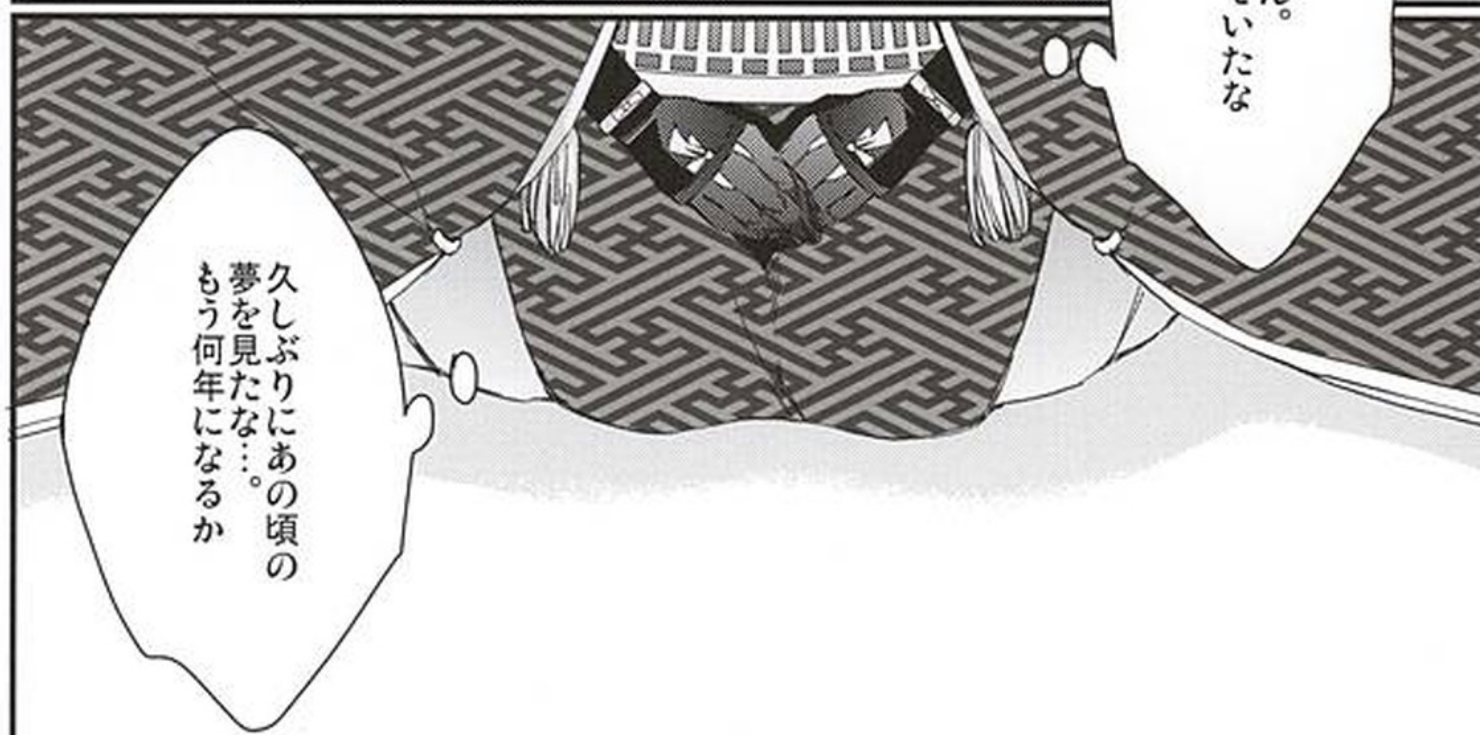
それだけ。



博物館




……いかん。
少し眠っていたな




久しぶりにあの頃の
夢を見たな……。
もう何年になるか


それにしても
退屈だ




あと数日も
すればこの
展示も終いか



奥にしまわれると
益々退屈だな



暫し眠りに
着くのも悪くないか



世は平和だ。
俺が使われる事は
もうないかもしれんが
あの丸の賑わいが
嘘のようだ







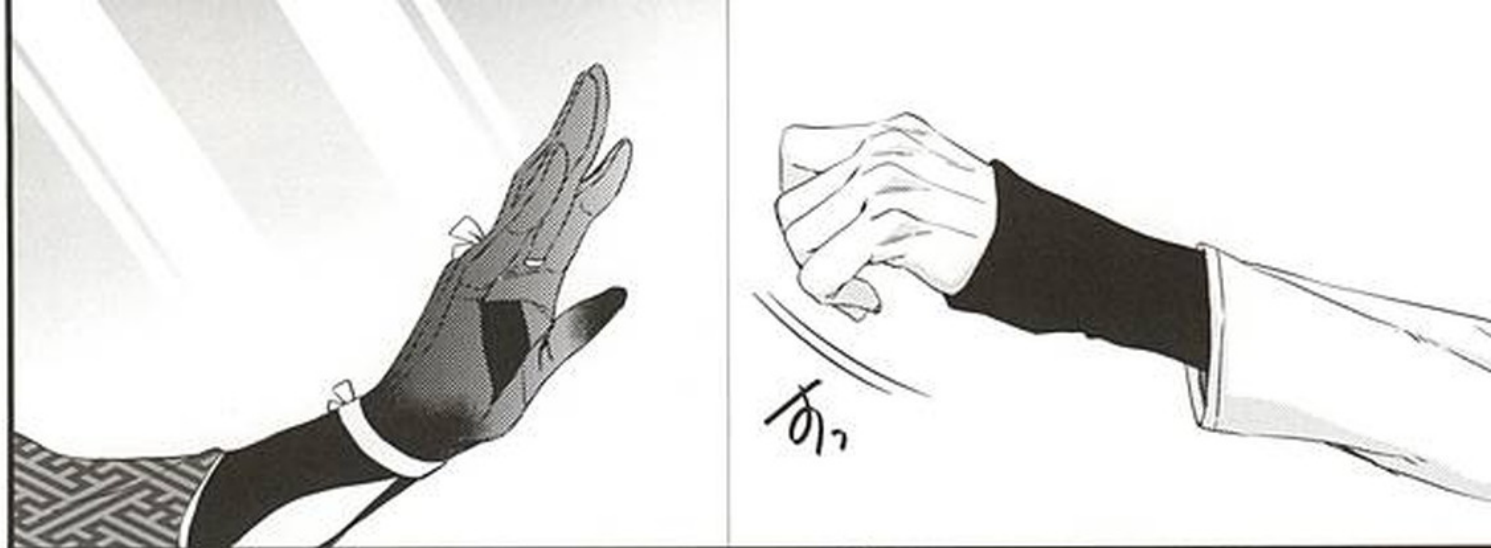
小狐丸っ……!

お、お前……どうして……
俺はもうてっきり
置いていかれたと
思っておったぞ

随分と待たせおって……
しかしなんだ
その髪と格好は。

まるで現代人の
ようだな。
真似事か？

……?
小狐丸？



よく見ればあれは
肉の身体。

審神者がいない今
それはあり得ない。

ただの人間か？
随分と似ている。

かの人似たその男は
閉館まで「俺」を見続け
去って行った。

それからというもの
毎日、日暮れ頃
俺を見に来るように
なった。

「三日月」

閉館間際だというのも
あるだろうがほぼ
2人きりという状況
になるのだ。

不思議なことに
国宝を見ようと
連日押し寄せる人波が
その男が来る時だけ
びたりと収まる。

4日目

不思議な
人の子よ

そんなに
見つめて
どうする？

打ち除けが
見たいのか？

光の加減や
角度で見え方が
違うから難しいぞ

(近付くとよく見えるのう。
綺麗な三日月が蒼い瞳に
昇っておる)

あやつも、よく
見つめてきたな

(綺麗じゃ)

綺麗だと、幾人に
褒められ、言われ
慣れた言葉。

美しいとか
綺麗というのは
もう俺にとつて
普通のことだ。

素敵

素晴らしい

綺麗だわ

なんと
美しい

だが

その言葉も
唯一小狐丸に
言われるのは
心地よく
好きだった。

お前の
言葉が

声が

恋しい



飽きんな
お前も



刀まにあ、という
やつか？人が
掃ける閉館間際の
夕暮れ時に来るが
仕事はこの時間に
終わるのか？



…名は

なんと
いうのだ？



家族は
いるのか？

住まいは
近いのか？
恋人はどうだ？

お前ほどの容姿なら
引く手数多だろう





ああ、まずは
こちらから
名乗るのが
礼儀であつたな



俺は
三日月宗近

お主の名は？



…うむ

やはり
聞こえんか

ぼあ

6日目

……俺に
夢中だ
おぬし





人間ということはあるやっではないのだから

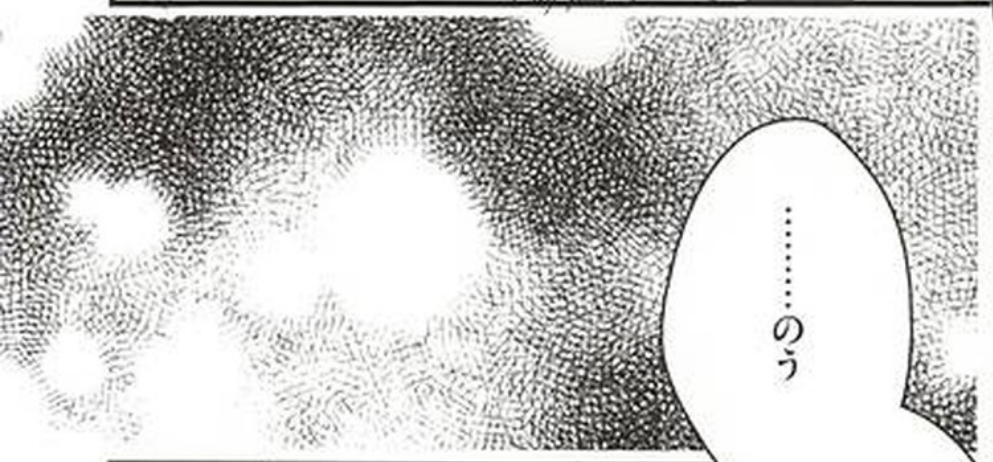
しかし、似ておる

他人の空似という範疇を超えておるように見えるが...



小狐丸





何故

黙って置いて
行ったのだ？



別の番いが
出来たのか？

俺ではダメ
だったか？

……

……今のは戯言だ。
お前に言っても
仕方のない事
だったな。

いかんな。
未練がましいのは

おっ

閉館時間が
来て立ち去る瞬間

目が合った気が
したが

たぶん
気のせい

いよいよ明日で
俺の展示も終了だ。

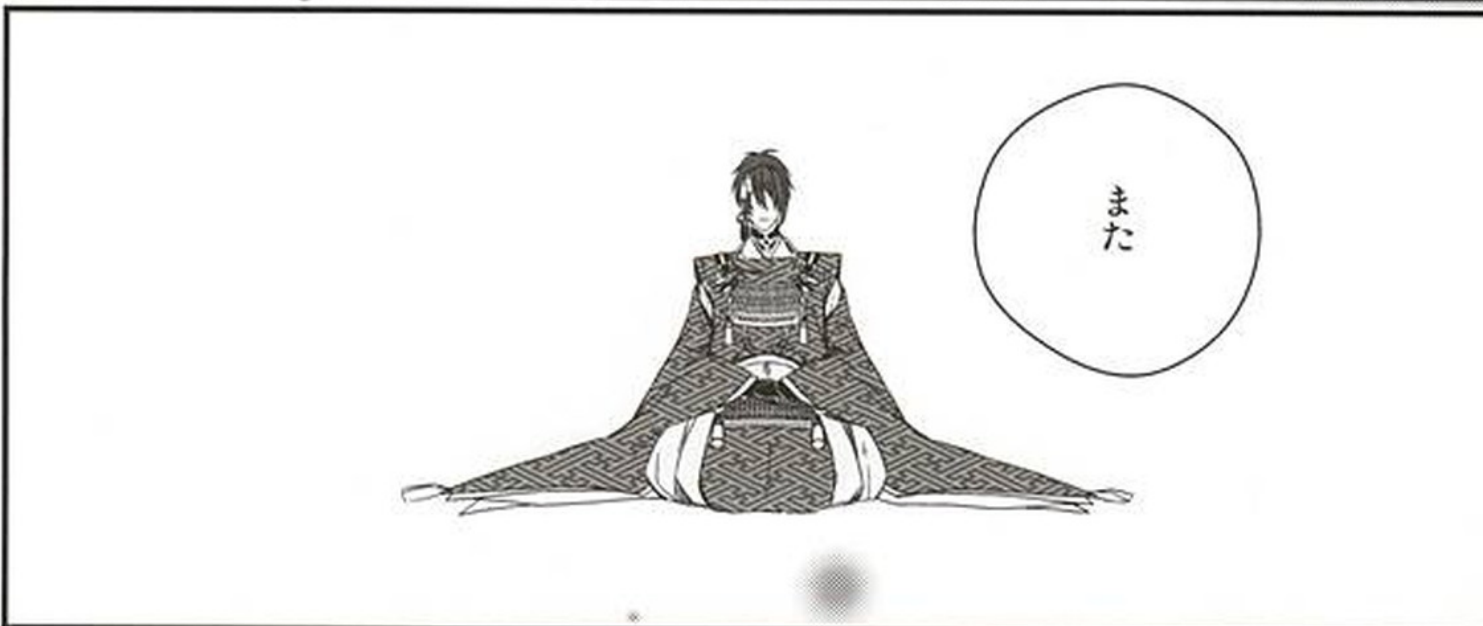
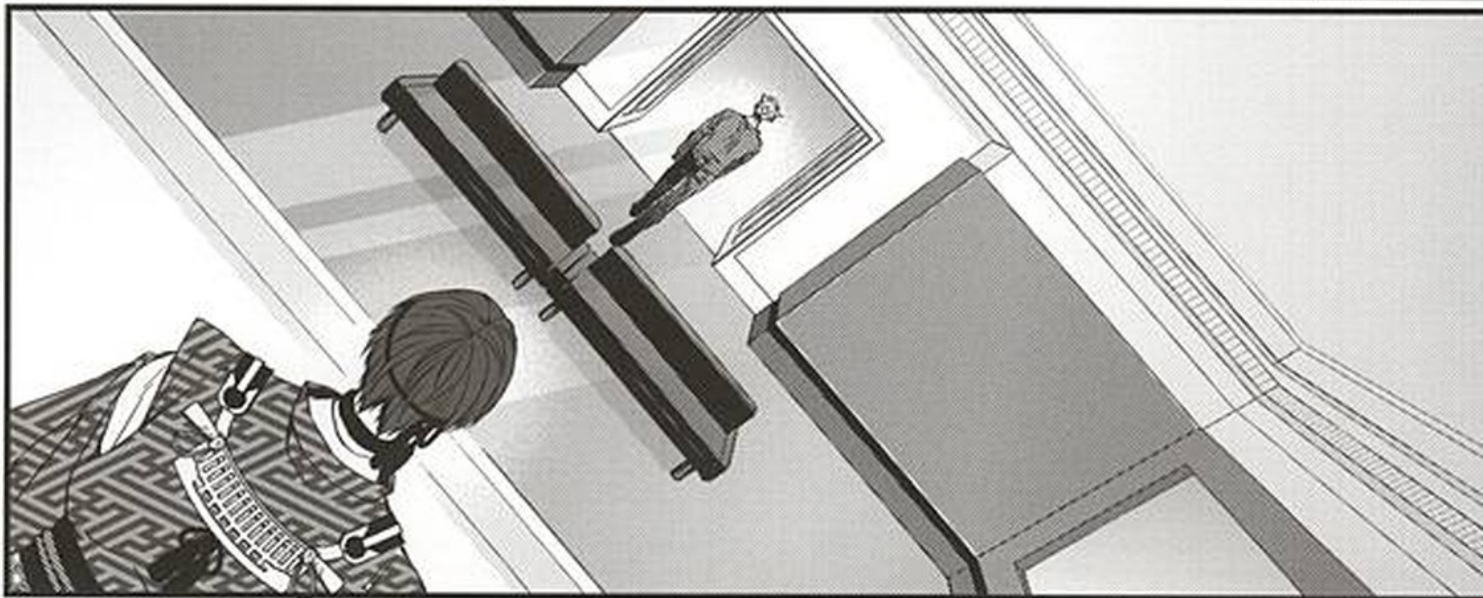
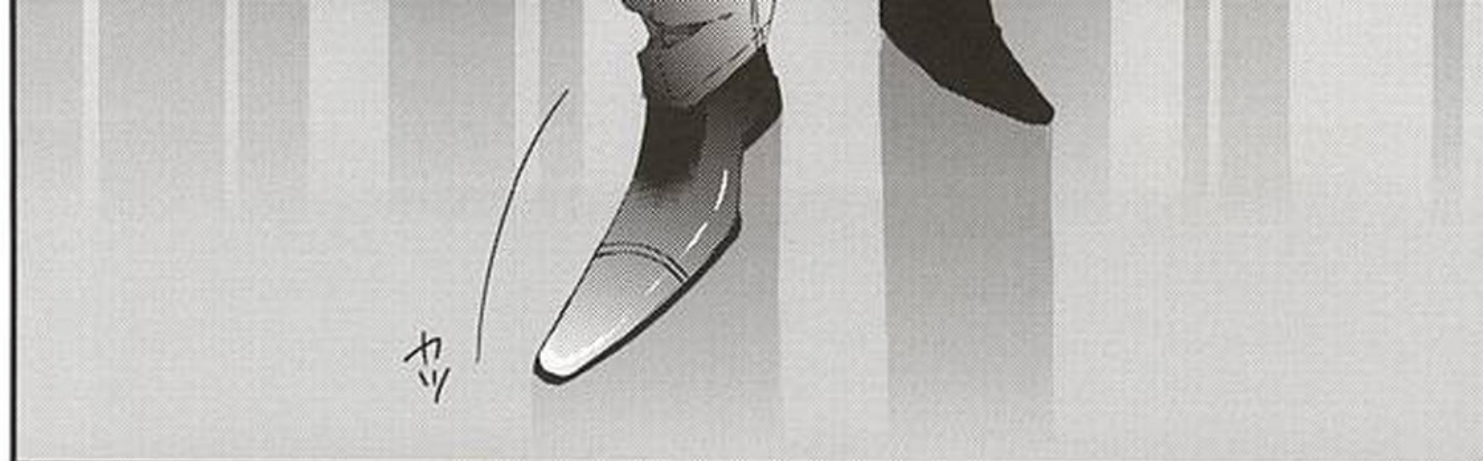
明日も
来るか？



……愚問
だったな。

俺に夢中
だものな
お前は





10 目 目



俺は
美しいか？

次いつ見られるか
わからんからな。

たっぷり
見ておくと
いいぞ青年

……美しい

綺麗だ

一番

……

.....

いやはや
声まで似て
いるのか

耳に心地よい
声に懐かしさと
同時に切なくなった。

肉の器は
もうないはずなの
胸が痛んだ。
気さえした。

今日で最後。

次に展示されるのは
いつかも知れない。

最後だ。
そう思ったら
体が動いた。



小娘のような
事をしてしまった

くあくあ

うむ。
少し気恥ずかしいな
これは。変なことを
してすまんな青年。
許せよ

最今
後口



……暫くの間は
仲睦まじく
してたと思う

俺が勝手に期待してただけで
あちらはちよつとした
暇つぶしだったんだろう。

家族になれたと
思っていたんだが……

俺は真に受けて
浮かれてたんだ。
あの日、挨拶も
なかったのが
その証拠

俺を置いて
何処ぞへと
消えて
しまっただけ……

それならそれで
仕方ない

痛む心に気付かない
ふりをして、「そうか」と
主だった人間に
笑って見せたあの日。

傷付いたところで
どうにもならない。

胸が痛んだ。
喉がひりついた。
指先が痺れた。
きつと肉の器が
そうさせるのだと
思った。

神として戻れば
この感覚も
なくなるだろう。

なのに、こうして
魂の存在になつた今、
あの男の事だけが
どうしても心に
刺さつて抜けない
棘のようにいつまでも
胸を小さく痛ませる。
ないはずの感覚が襲う。



さよならも言わせて
くれなかつたんだ、
あいつは。男だろう？
ひどい男だろう？

俺が面倒に
なつたのなら
一言言えば
よかつたのだ。

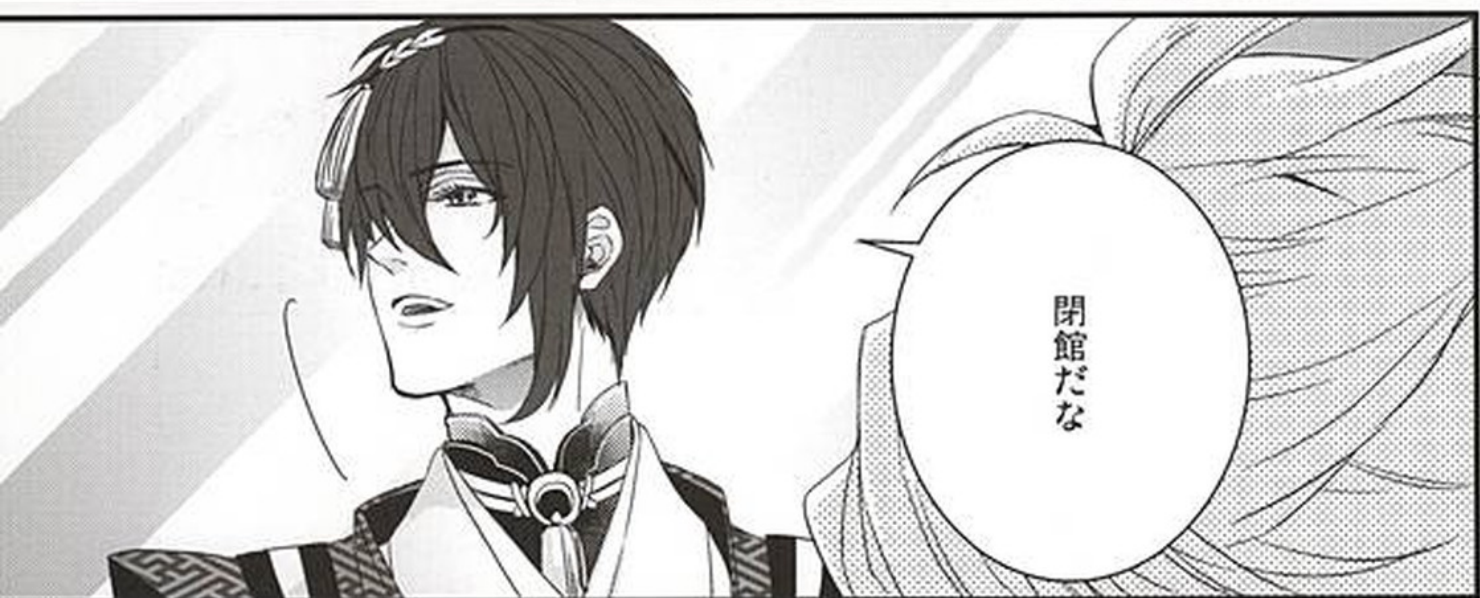
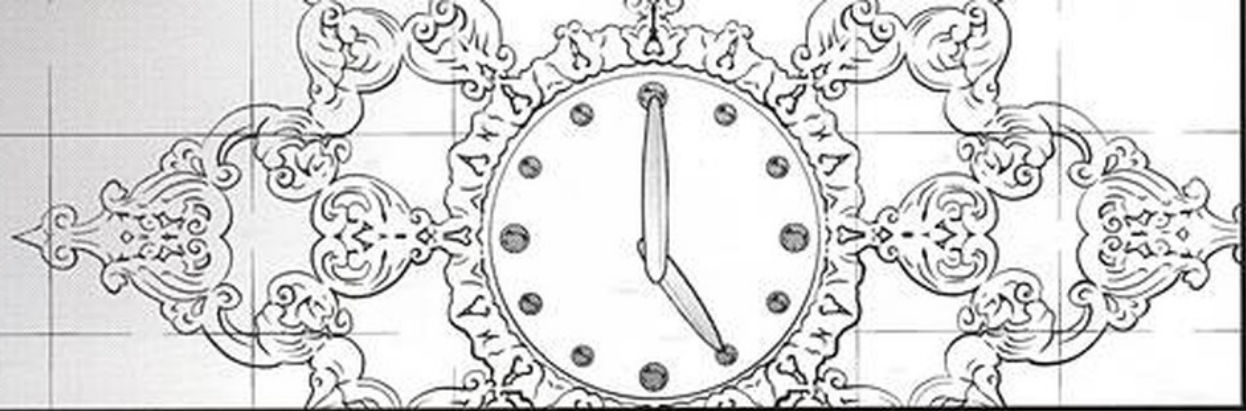
心変わりした者に
女々しく繙ったりなど
しなかつたものを。

だから、青年。
せめてお前とは
綺麗に別れたい

見えずとも
伝わらずとも
それでもいい。

この人の前に似ている
別の男に
別れを言えたら

あの日
押し込んだ
気持ちだけが
少しだけ消える
気がして



閉館だな



さらばだ
名も知らぬ青年



達者で
暮らせ



その日も

彼は変わらず
閉館と
共に去って
行った。





これでお主は
私の嫁じゃ。

国宝、天下五剣
この世で最も
美しい刀、
三日月宗近

この小狐丸が
貰い受ける



また奥の暗い
蔵に戻るのか

それも仕方なし



何が嫁だ

嫁を何年も
放っておくのか



嘘つき狐め



泣
いて
たの
か



.....
?

どうした青年。
帰ったのでは
ないのか？



もう閉館したぞ。
時期に警備の
者と博物館の
者が来よう。

叱られる
前に……





夫の顔をよもや
忘れたわけでは
あるまい

な、何故黙って
いた？

俺はてっきり……
いやそれに
その身体……

ペラペラと刀に
向かって喋って
いたら怪しまれる
じやろう？

この身体はおぬしの
刀身を持ち帰るには
肉の器がないと
持てぬからじゃ

魂だけではおぬしの
刀身は透けてしまうが。

それに私の本体である刀は
あちらにあるからな、
魂だけでこちらに渡ると
力の消耗が激しい

あ
目を合わせないように
するの骨が折れた

しかしこちらの
気も知らずに
話しかけて来る度に
答えそうになつたぞ





遅くなってすまぬ。
お主をあちらに迎え
入れる準備に手間
取ったのじゃ。

肉の器を維持するのも
多少狐達の助力が必要での。

私が勝手に嫁取りを
したのが気に食わんかった
らしくてのう。
説得して準備をしていたら
今日になったという訳じゃ

待ちきれなくておぬしが
どういう状態で保存
されてるかの偵察と少しでも
早く姿だけでも
見たくてな…

まあ詳しくは
後じゃ。
時間が無い。

さあ

約束通り
攫いに来たぞ

三日月宗近

と言ってもこちらで
身体を維持できるのが
逢魔が時のみであまり
長くはおれんかったが…



あの日
一言でも言って
くれなかったのだ？

一言あれば、
俺は……

悲しい気持ちに
押しつぶされずに
それこそ百年でも
待てたのに



三日月？



狐達が急かして
引き戻されて
しまったんじゃ



すまぬ……



……

何故

本来ならおぬしも
連れて行くつもり
だったんじゃが……

いや、言い訳は
するまい。

私の不徳だ、叱って
くれて構わん。妻を
悲しませるなど
夫失格じゃ

……お前の


気持ちには
変わって
いないのか？

無論。私の妻は生涯
三日月宗近のみ。
言ったであろう？
狐は番いを変えぬ。


あちらへ行ったら改めて
嫁入り儀式をしろと
狐達に言われて
おるんじゃが、よいか？
一日かけての
大行列になると思う

あっ……

……あつ



夫を
許してくれるか？



……
赦そう




国宝が消えたら
騒ぎになるだろうな

私は狐。
人を化かすのは
お手の物じゃ
おぬしがいなく
なつたと驚かせて
やれば良い。

さあ。
共に行こうぞ

ああ、行こう



ある日の夕暮れ時、お天気雨。
国宝がひとつ、忽然と消えた。

終幕



TEC/Nakamura Toya

小狐丸×三日月